日本初の国立劇場設立をめぐって:1945年以降の文化政策と演劇史の観点から

第二次世界大戦後の日本の社会・経済の復興の一環として、演劇界も大きな変化を遂げた。戦後20年間の演劇界における重要な発展のひとつは、伝統芸能、特に歌舞伎の保存と振興を唯一の目的とする初の国立劇場の計画と建設であった。本講演では、日本の文化政策や演劇の歴史的な背景を考慮しながら、特に日本の文化財保護法の役割に触れて、最初の国立劇場創設の経緯について述べる。また、この劇場とその目的は日本独自の国立劇場の在り方を体現しており、基本的に民間主導の演劇制作に基礎をおく点に特徴があったことを述べる。

日　時：２０２４年１１月８日（金）１６：００-１８：００

場　所：神戸大学　鶴甲第一キャンパスE410（学術交流ルーム）

参加方法：参加無料・事前予約不要（対面のみ）使用言語：日本語

講演者

アンネグレート・ベルクマン （ベルリン自由大学）

ベルリン自由大学客員教授。東アジア美術史、そして中国学をボン大学および早稲田大学で学び、トリーア大学で博士号を取得した。研究の中心は桃山時代の美術と日本における演劇興行の歴史である。最新の出版物として以下がある。“Art on Stage — Shift in Kabuki Costumes from Craft to Art —.” *Art Research* (2024), “Performing Artists‘ Voices Remain Unheard: Theatre Productions and the COVID-19 Pandemic in Japan” in H. Zawiszová and M. Lavička(Hrsg.), *Voiced and Voiceless in Asia* (2023).

コメンテーター

秋野有紀（あきの　ゆき：早稲田大学）

早稲田大学教育・総合科学学術院教授。Dr.phil. 専門は文化政策学。主著『文化国家と「文化的生存配慮」』（2019年、美学出版）にて日本ドイツ学会奨励賞受賞。文化庁、日本芸能実演家団体協議会、内閣官房等で委員を務める。令和３年度より諸外国の文化政策に関する文化庁・大学研究機関等との共同研究事業責任者。

松本俊樹（まつもと　としき：大阪音楽大学）

大阪音楽大・大阪産業大・甲南大・京都市立芸大非常勤講師。同志社大学文学部、同大学大学院文学研究科文化史学専攻博士前期課程を経て、大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻博士後期課程修了。博士（文学、大阪大学）。専門は1920年代～30年代の少女歌劇を中心とする、近代日本の商業演劇史。

主　催：神戸大学国際文化学研究科石田圭子研究室
科研費：基盤研究(B)「モダニズムの政治学：戦後におけるモダニズム美学の形成／受容／展開と政治の関連性」（研究代表者：石田圭子 ）
共　催：神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート（Promis）

お問い合わせ：keikoishida@people.kobe-u.ac.jp　　石田圭子 （国際文化学研究科・教授）